



経営課題 2 みんなが健康で安心して暮らせるまちづくり

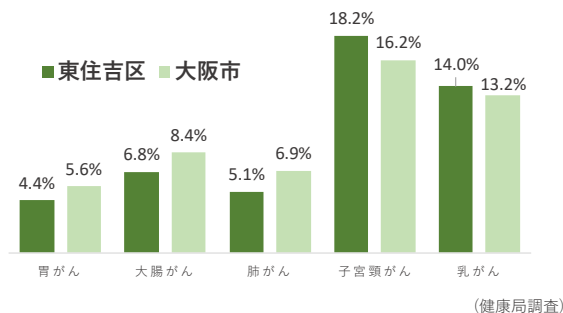
めざすべき将来像(最終的なめざす状態)＜概ね10～20年間を念頭に設定＞

健康づくり・防災・防犯に様々な対策がとられ、区民の意識が高く、みんなが健康で安心して暮らせるまち

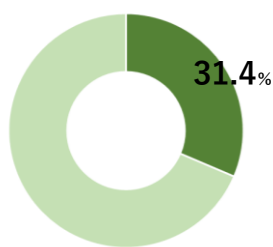
健康に暮らせるまちづくりの推進

現状 ＜課題設定の根拠となる現状・データ＞

がん検診受診率(平成30年度)



福祉・介護等の相談先に満足している区民



要因分析＜めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果＞

【健康づくり】

- がん検診の受診率が全市平均より下回っている状況が、がんの死亡率が高い要因の1つと考えられる。

【福祉相談ネットワークの強化】

- 地域とのつながりが少なく、支援を必要としながら適切な支援につなげていない人が多い。

課題＜上記要因を解消するために必要なこと＞

【健康づくり】

- 特定健康診査やがん検診の受診率向上を図り、区民自ら健康の保持増進に努めるよう意識を向上させる必要がある。

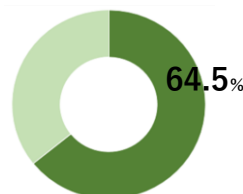
【福祉相談ネットワークの強化】

- 身近なところで気兼ねなく相談でき、必要な支援に的確につながるしくみを確立していくことが必要である。

安心して暮らせるまちづくりの推進

現状 ＜課題設定の根拠となる現状・データ＞

自助、共助ともに理解している区民



地域防災リーダー

平均年齢	63.3歳
女性割合	20.0%

(令和2年4月現在)

東住吉区内における主な街頭犯罪及び特殊詐欺発生件数

	ひったくり	路上強盗	自動車盗	車上ねらい	部品ねらい	オートバイ盗	自転車盗	特殊詐欺
H30	14	2	34	221	105	36	412	25
R元	7	3	16	128	61	28	435	31
R2	5	0	11	138	79	26	301	15(暫定値)

(大阪市の犯罪発生状況)

要因分析＜めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果＞

【防災力の強化】

- 自助、共助の考えや意識が十分に浸透しておらず、また、地域防災活動の担い手が高齢化し、女性の参画も十分とはいえない。

【防犯力の強化】

- 特殊詐欺発生件数は減少しているものの、車関連犯罪（車上ねらい、部品ねらい）は増加傾向である。

課題＜上記要因を解消するために必要なこと＞

【防災力の強化】

- 自らの力で防災・減災に繋がる行動ができるよう、全区民の防災・減災に対する意識の向上に取り組むとともに、地域の力で防災・減災に繋がる行動ができるよう、自主防災組織の機能強化を図る必要がある。

【防犯力の強化】

- 区民の防犯への関心を高めるとともに、犯罪抑止のため、警察署、地域と連携し継続的に取り組む必要がある。

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

- 地域内での「声かけ」「見守り」「助け合い」「支え合い」を実感している区民の割合は57.3%で、昨年度から1.7%の増加となった。少しずつではあるが、地域でのつながりを実感している区民が増えていることが分かった。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響により地域事業が自粛され自宅に引きこもる方が増えているため、今後も継続したケアを行っていく必要がある。また、相談内容についても的確に関係機関へつなぎ、情報共有を行いながら引き続き、地域におけるゆるやかな見守り活動の向上につなげていく必要がある。
- コロナ禍における健康づくり事業については、外出自粛要請等もあり十分な事業展開が困難であった。コロナ禍が終息に向かう時点で引き続き取組を再開していく方針である。
- 防災：防災マップの区内全戸配布等により区民の防災意識の向上を図るとともに、地域が自主的・自律的に実施する防災訓練等への支援や小中学校との連携、初動にあたる職員への実践的な研修・訓練の実施等により、災害対応力の向上につながったと認識している。引き続き、「自助」「共助」「公助」に関する取組を実施していく。
- 防犯：区内でも特殊詐欺に繋がる電話が増えており、引き続き警察署や地域と連携し防犯意識の向上に努める。

めざす成果及び戦略 2－1 【健康に暮らせるまちづくりの推進】

めざす状態<概ね3～5年間を念頭に設定>
区民が健康づくりに取り組み、福祉相談につながるができる状態
戦略<中期的な取組の方向性>
・区民の主体的な活動と行政、企業等が協力して、地域の特性に応じた健康づくりを推進する。 ・関係機関と連携して、生活習慣病、認知症予防に取り組む。 ・地域福祉のネットワークとして再構築された「地域支援システム」により、新たなニーズに対応する仕組みや体制を充実させることで、地域福祉活動を専門的に支援する機能を強化する。 ・地域のニーズを早期に発見し、的確な支援につないで連携して問題解決を進めるとともに、必要に応じて新たな事業や施策を提案していく仕組みを充実する。

具体的取組 2－1－1			健康づくり		
元決算額	1,377千円	2 予算額	1,350千円	3 予算額	1,345千円
当年度の取組内容					

- ・地域健康講座時に、健診の必要性の啓発とがん予防の生活習慣病指導(禁煙指導を含む)の実施
- ・食品・環境衛生事業者(理容所等)との連携や各種イベント開催時にがん検診・特定健康診査の受診勧奨の実施
- ・「はつらつ脳活性化元気アップ教室」の開催及びリーダー育成
- ・みんなの健康展(1回)、食育フェスタ(1回)の開催

プロセス(過程)指標
<取組によりめざす指標>
①特定健康診査の受診率・区保健福祉センターで実施される大腸がん、肺がん、乳がん検診の充足率が前年度を上回る。
②はつらつ脳活性化元気アップリーダーが参画する講座の開催：年250回以上
【撤退・再構築基準】
①②いずれも目標を下回った場合

当年度の取組実績
①取組実績なし
②はつらつ脳活性化元気アップリーダーが参画する講座の開催：年間102回

プロセス(過程)指標の達成状況
①特定健康診査の受診率(23.5%→21.2%)は前年度を下回った。大腸がん(97.3%→76.6%)肺がん(94.5%→76.0%)乳がん(99.0%→91.8%)の各健診とも充足率は昨年度を下回った。
②新型コロナウイルス感染症の影響により、計画通りに実施できなかった。
未達成

目標の達成状況	取組の進捗状況	戦略に対する取組の有効性	課題と改善策
中間	未達成(見込)	予定どおり進捗していない	プロセス指標未測定
年度末	未達成	予定どおり実施しなかった	有効であり、継続して推進

前年度までの実績

- (令和2年度)
- ・各種健診事業等でがん検診の受診勧奨や生活習慣病指導等の取組を実施(がん検診・特定健診は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により4～6月は中止)
- ・元気アップリーダーに対しフォローアップ講座の開催

アウトカム(成果)指標 ＜めざす状態を数値化した指標＞		前年度	今年度	個別 評価	全体 評価
健康に暮らせると思う区民： 令和7年度末までに50％以上		—	82.4 ％	順調	順調
声かけ、見守り、助け合い、支え合いを実感 している区民：令和7年度末までに54.8％以上		55.6 ％	57.3 ％	順調	
戦略の進捗状況		順調でない			
戦略のアウトカム 指標に対する有効性	課題				
	今年度は新型コロナウイルスの影響により、講座等の実 施が困難であった。				
	今後の対応方向				
	コロナ禍が終息に向かう時点で引き続き取組を再開して いく方針である。				

具体的取組 2－1－2		福祉相談ネットワークの強化			
元決算額	48,923千円	2 予算額	50,048千円	3 予算額	50,164千円
当年度の取組内容					

- ・地域福祉サポーターを配置した地域相談窓口による相談対応の実施
- ・地域資源利用や開発のネットワーク化、担い手養成、発掘の促進
- ・要援護者名簿の拡充や整備を行うとともに見守り支援ネットワーク(福祉専門職)による、訪問や地域の見守り活動等の実施
- ・住居環境の健全化に向けた支援の実施

プロセス(過程)指標
<取組によりめざす指標>
区内14地域の地域相談窓口の利用者満足度：50%以上

【撤退・再構築基準】
30%未満

当年度の取組実績
・「地域相談窓口」の認知度向上のため広報紙等で周知活動を行った結果、相談や情報共有及び関係機関へのつなぎ件数31,922件(前年度比10.9%増)
・見守り支援ネットワークによる訪問件数385件(前年度比68.9%減)
・ライフライン事業者等からの通報による安否確認8件(前年度比4件増)
・「物品等の堆積による不良な状態の適正化条例」に基づく条例該当：1件(前年度比±0)、条例非該当3件(前年度比1件減)

プロセス(過程)指標の達成状況
区内14地域の地域相談窓口の利用者満足度：89.7%
達成

目標の達成状況	取組の進捗状況	戦略に対する取組の有効性	課題と改善策
中間	達成(見込)	予定どおり進捗	プロセス指標未測定
年度末	達成	予定どおり実施	有効であり、継続して推進

前年度までの実績

- (令和2年度)
- ・地域福祉サポーターの配置(14地域)
- ・見守り支援ネットワーク(福祉専門職)の配置
- ・住居環境の健全化にむけた支援員(ソーシャルワーカー)の配置

めざす成果及び戦略 2－2 【安心して暮らせるまちづくりの推進】

めざす状態<概ね3～5年間を念頭に設定>
防災・防犯に様々な対策がとられ、区民の意識も高い状態
戦略<中期的な取組の方向性>
・様々な機会に啓発を行い、防災意識の向上を図る。 ・地域防災への女性や若年層の参画を促進し、地域の実情や意向を反映した防災訓練の支援等を行うことにより、自主防災組織の機能強化を図る。 ・区災害対策本部の役割を全職員に認識させる取組を進め、初期初動及び災害応急対策の中核を担う3号動員職員を重点的に養成することにより、区役所全体の防災力の強化を図る。 ・区民の防犯意識を高めるとともに、犯罪類型に応じた迅速で効果的な対策を警察署、地域と連携して継続的に取り組む。

具体的取組 2－2－1			防災力の強化		
元決算額	2,744千円	2 予算額	3,218千円	3 予算額	3,216千円
当年度の取組内容					

- ・区民の防災意識を向上させる取組
広報紙等での情報発信、防災イベントの開催
- ・自主防災組織の機能強化を図る取組
地域の自主的、自律的な防災訓練の支援、
地域防災リーダー防災学習の実施、女性の参画促進に向けた支援
- ・区災害対策本部の機能強化を図る取組
実働的な内容を盛り込んだ訓練・研修による職員の意識向上

プロセス(過程)指標 <取組によりめざす指標>
①災害に対して備えをしている区民：80％以上 ②有事の際の行動を理解している地域防災リーダー：70％以上 ③災害時の参集基準や区災害対策本部の役割を理解している職員：95％以上 【撤退・再構築基準】 ①50％未満②50％未満③85％未満

当年度の取組実績
・区民の防災意識を向上させる取組 防災マップの区内全戸配布、広報紙での防災情報発信（6月・9月・2月）、防災関連行事における啓発 ・自主防災組織の機能強化を図る取組 地域防災訓練の支援（5地域）、地域防災リーダー防災学習等（3地域） ・区災害対策本部の機能強化を図る取組 職員研修（8月）、総合防災訓練（9月）、震災総合訓練（1・2月）、初期初動マニュアルの配付（3号動員職員・直近参集者）、携帯用マニュアルの配付（全職員）

プロセス(過程)指標の達成状況
①災害に対して備えをしている区民：77.9％ ②有事の際の行動を理解している地域防災リーダー：80.3％ ③災害時の参集基準や区災害対策本部の役割を理解している職員：95.5％
未達成

目標の達成状況	取組の進捗状況	戦略に対する取組の有効性	課題と改善策
中間 達成（見込）	予定どおり進捗	プロセス指標未測定	—
年度末 未達成	予定どおり実施しなかった	有効であり、継続して推進	新型コロナウイルスの感染状況に応じた各種取組の実施方法の検討

前年度までの実績

- (令和2年度)
- ・防災マップ等の広報紙での情報発信、小中学校における防災授業等の実施支援
 - ・防災イベント（新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止）
 - ・地域防災訓練等の実施支援、地域防災リーダー研修の実施
 - ・職員研修や職員の参加する防災訓練の実施

アウトカム(成果)指標 ＜めざす状態を数値化した指標＞	前年度	今年度	個別 評価	全体 評価
「自助」「共助」ともに理解している区民： 令和7年度末までに70％以上	64.5 ％	61.0 ％	順調で ない	順調で ない
犯罪のない安心できるまちであると思う 区民：令和7年度末までに60％以上	56.2 ％	57.7 ％	順調	
戦略の進捗状況			順調でない	
戦略のアウトカム 指標に対する有効性	課題			
有効であり、 継続して推進	防犯：街頭犯罪発生件数については減少している。特殊詐欺被害件数は横ばいであるが、特殊詐欺に繋がる電話については増加傾向にあり引き続き警察署、地域と連携し啓発を行う必要がある。			
	今後の対応方向			
	防犯：街頭犯罪や特殊詐欺について、引き続き犯罪発生件数の減少に向け、警察署、地域と連携して取り組む。			

具体的取組 2－2－2			防犯力の強化		
元決算額	1,657千円	2 予算額	1,682千円	3 予算額	1,819千円
当年度の取組内容					

- ・犯罪類型に応じた警察署、地域と連携した防犯活動
ひたたくり防止カバー取付キャンペーン(18回)
シリンダー錠取付キャンペーン(12回)、こども安全講習の実施(50回)
街頭やコンビニ等での特殊詐欺防止啓発(年金支払日)
- ・青色防犯パトロールカー、自転車による巡回(随時)
- ・広報紙、ラビット通信、ホームページ、公式SNS等による情報発信(随時)

プロセス(過程)指標 <取組によりめざす指標>
区役所が警察署、地域と連携して実施する防犯に関する取組が、犯罪抑止に役立つと考える区民：80％以上
【撤退・再構築基準】 50％未満

当年度の取組実績
・犯罪類型に応じた警察署、地域と連携した防犯活動 ひたたくり防止カバー取付キャンペーン(22回) シリンダー錠取付キャンペーン(22回)、こども安全講習の実施(66回) ・青色防犯パトロールカー、自転車による巡回(随時) ・広報紙、ラビット通信、ホームページ、公式SNS等による情報発信(随時)

プロセス(過程)指標の達成状況
区役所が警察署、地域と連携して実施する防犯に関する取組が、犯罪抑止に役立つと考える区民：98.3％
達成

目標の達成状況	取組の進捗状況	戦略に対する取組の有効性	課題と改善策
中間 達成（見込）	予定どおり進捗していない	プロセス指標未測定	犯罪類型に応じた警察署、地域と連携した防犯活動の取組については、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止していたが、10月から感染防止対策を行い再開予定。
年度末 達成	予定どおり実施	有効であり、継続して推進	今後も引き続き感染状況に応じた対策を行い防犯活動の取組を実施する。

前年度までの実績

- (令和2年度)
- ・犯罪類型に応じた警察署、地域と連携した防犯活動、ひたたくり防止カバー取付キャンペーン(6月以降実施)、シリンダー錠取付キャンペーン(6月以降実施)、こども安全講習(7月以降実施)
 - ・青色防犯パトロールカー、自転車による巡回(随時)
 - ・広報紙、ラビット通信、ホームページ、公式SNS等による情報発信(随時)



経営課題 3 みんながつながるまちづくり

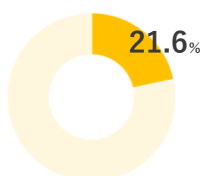
めざすべき将来像(最終的なめざす状態)＜概ね10～20年間を念頭に設定＞

区民相互が交流と助け合いを行い、地域の自主的なまちづくり活動が活発に行われている、みんながつながるまち

区民相互のつながりづくりへの支援

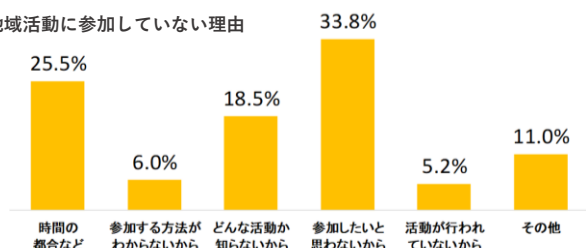
現状 ＜課題設定の根拠となる現状・データ＞

地域活動に参加
したことがある区民



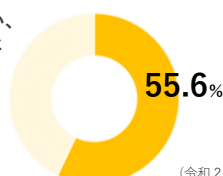
(令和元年度区政に関する区民アンケート)

地域活動に参加していない理由



(令和元年度区政に関する区民アンケート)

声かけ、見守り、助け合い、
支え合いが行われていると
感じる区民



(令和2年度第1回区民アンケート)

要因分析 ＜めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果＞

【区民相互の交流活動への支援】

- ・人と人とのつながりの希薄化がみられる。
- ・担い手・参加者が固定化している。

【区民相互の助け合い活動への支援】

- ・日常生活での「困りごと」に対し、手助けを必要としている人が多数いる。

課題＜上記要因を解消するために必要なこと＞

【区民相互の交流活動への支援】

- ・行政だけでなく、より多くの区民や様々な活動主体のまちづくり活動への参画を促すため、地域活動に関する効果的な発信や交流の場の提供等を行う必要がある。

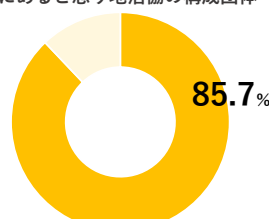
【区民相互の助け合い活動への支援】

- ・身近なところで気兼ねなく相談でき、必要な支援に的確につながる仕組みを確立していくことが求められる。

地域活動協議会による自律的な地域運営の促進 (改革の柱4-1)

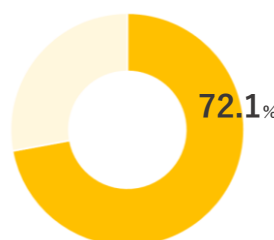
現状 ＜課題設定の根拠となる現状・データ＞

地域特性に即した地域課題の解決に
向けた取組が自律的に進められている
状態にあると思う地活協の構成団体



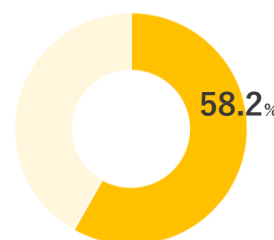
(令和元年度地域団体へのアンケート)

地域活動協議会に求められている
準行政的機能を認識している
地活協の構成団体



(令和元年度地域団体へのアンケート)

地域活動協議会に求められている
総意形成機能を認識している
地活協の構成団体



(令和元年度地域団体へのアンケート)

要因分析 ＜めざすべき将来像と現状に差が生じる要因の分析結果＞

【地域の自主的なまちづくり活動への支援】

- ・地活協が形成され数年が経過し、地域により自律度にバラつきが生じている。
- ・地活協の意義や求められる機能について、地域により理解を促進するための取組に差がある。

課題＜上記要因を解消するために必要なこと＞

【地域の自主的なまちづくり活動への支援】

- ・全地域一律の支援ではなく、地域の実情に即しながら、先進的な地域・活性化している地域などのモデルとなりうる地域の支援を行いながら、全地域への波及効果も含めて全地活協のレベルの底上げを図っていくよう支援を行う必要がある。
- ・地活協の意義や求められる機能について理解がさらに向上されるよう、積極的な働きかけや情報発信を行う必要がある。

戦略の進捗状況を踏まえた経営課題全体としての評価結果の総括

- ・地域における身近な困りごと相談については14地域に相談窓口を設置し、相談内容により適切な関係機関への「つなぎ」を行っている。また、高齢者食事サービス事業については、新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、昨年度を上回る利用状況（令和3年度参加者数9,478人）となり、地域での福祉活動推進の向上につながった。今後も地域での助け合い活動が活発に行われていくための活動支援を継続して行っていく必要がある。
- ・地活協への効果的な支援のため、地域の実情に即した個別の支援を行うことで全地活協の底上げを図ってきた。引き続き活動が安定したものとなるよう人材の育成、発掘につながる支援や、地活協に求められる準行政的機能や総意形成機能についての理解を促進する支援を継続する。

めざす成果及び戦略 3－1 区民相互のつながりづくりへの支援

めざす状態<概ね3～5年間を念頭に設定>
区民相互が活発に交流し、地域福祉活動等の助け合いを行っている状態
戦略<中期的な取組の方向性>
まちづくりに関する活動をサポートし、情報発信を強化することで、区民のまちづくり活動への関心を高め、参加を促す。 地域の方々による自主的な福祉活動推進の機運を高め、新たな担い手を発掘する。

具体的取組 3－1－1		区民相互の交流活動への支援	
元決算額	9,057千円	2 予算額	9,991千円
当年度の取組内容		【改定履歴あり】	

- 様々な地域団体や企業等の参画のもと地域ニーズに対応した手法で事業を実施し、区民相互の交流活動をサポートする。(区文化祭(12月)、区民スポーツイベント等(11月～3月))

あらゆる世代が参加する生涯学習活動を推進する(区内大学等共催講座(2月)、のびのびワクワク体験広場(11月)、学校体育施設開放(20校))

プロセス(過程)指標 <取組によりめざす指標>
「次も参加したい」と答えた参加者：70%以上
【撤退・再構築基準】 50%未満

当年度の取組実績
・区民スポーツイベントについては感染状況に応じた対策を行い、11月にバドミントン大会、3月にグラウンドゴルフ大会を行った。 ・学校体育施設開放（20校） ・のびのびわくわくスタンプラリーの開催（12月～2月） ・生涯学習ルーム作品を区民ギャラリーで展示（2月～3月）

プロセス(過程)指標の達成状況
独自アンケートによる「次も参加したい」と答えた参加者：96%
達成

目標の達成状況	取組の進捗状況	戦略に対する取組の有効性	課題と改善策
中間 達成 (見込)	予定どおり 進捗して いない	プロセス指標 未測定	「区民フェスティバル」については、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、今年度は実施しない。
年度末	達成	予定どおり 実施	有効であり、 継続して推進

前年度までの実績

- (令和2年度)
- 区民スポーツイベント等(11月以降実施)

学校体育施設開放(20校)

区民フェスティバル、区内大学等共催講座、のびのびワクワク体験広場は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止

アウトカム(成果)指標 ＜めざす状態を数値化した指標＞		前年度	今年度	個別 評価	全体 評価
まちづくりの活動が、地域団体等との連携・協働により進められていると感じる区民：令和7年度末までに50%以上		88.0 %	81.0 %	順調	順調
戦略の進捗状況		順調			
戦略のアウトカム 指標に対する有効性	課題				
有効であり、 継続して推進	—				
	今後の対応方向				
	—				

具体的取組 3－1－2		区民相互の助け合い活動への支援	
元決算額	4,038千円	2 予算額	4,448千円
当年度の取組内容		3 予算額	

- 高齢者の健康増進と孤独感の解消、地域社会との交流を目的に、ボランティアが在宅のひとり暮らし高齢者や寝たきりの高齢者等に、地域施設での会食等の世話を実施

認知症高齢者等徘徊者の保護のため、行方不明者情報を協力者にメール配信するシステムの活用

プロセス(過程)指標 <取組によりめざす指標>
「満足している」と答えた高齢者食事サービスの利用者：70%以上
【撤退・再構築基準】 60%未満

当年度の取組実績
・「高齢者食事サービス」の利用状況9,478人、前年度比：55.3%増 ・「要援護者名簿」の提供状況、令和3年度の提供件数4,801件、前年度比：2.3%減 ・認知症高齢者等徘徊者の保護に向けた行方不明者情報のメール配付件数11件(前年度から3件増)

プロセス(過程)指標の達成状況
「満足している」と答えた高齢者食事サービスの利用者：95%
達成

目標の達成状況	取組の進捗状況	戦略に対する取組の有効性	課題と改善策
中間 達成 (見込)	予定どおり 進捗	プロセス指標 未測定	—
年度末	達成	予定どおり 実施	有効であり、 継続して推進

前年度までの実績

- (令和2年度)
- 高齢者食事サービスの実施(13地域)

認知症高齢者等徘徊者を保護するシステムを運用

めざす成果及び戦略 3-2

地域活動協議会による自律的な地域運営の促進(改革の柱4-1)

めざす状態<概ね3～5年間を念頭に設定>
防災、防犯など安心・安全なまちづくりにかかる取組及び地域福祉、子育て支援、地域コミュニティづくりなどその他地域特性に即した地域課題の解決に向けた取組が自律的に進められている状態
戦略<中期的な取組の方向性>
・地活協のめざすべき姿に向けて、地域の実情に即したきめ細やかな支援を行い、仕組みの定着を図ることで、より多くの住民参加による自律的な地域運営を実現する。

アウトカム(成果)指標 ＜めざす状態を数値化した指標＞		前年度	今年度	個別 評価	全体 評価
地活協の構成団体が地域特性に即した地域課題の 解決に向けた取組が自律的に進められている状態 にあると思う割合：令和7年度末までに90%以上		89.5 %	90.1 %	順調	順調
戦略の進捗状況		順調でない			
戦略のアウトカム 指標に対する有効性	課題				
有効であり、 継続して推進	—				
	今後の対応方向				
	—				

具体的取組 3-2-1		地域の自主的なまちづくり活動への支援			
元決算額	35,446千円	2 予算額	42,806千円	3 予算額	43,208千円
当年度の取組内容					

- ・中間支援組織による地域活動協議会への支援
 地域の実情やニーズに合わせた広報等の実施
 地域の担い手の知識・技術の習得・向上の促進策の実施
 新たな地域活動の担い手の発掘、連携やスキルの継承 等
- ・地活協への連絡会議の開催(11回)

プロセス(過程)指標<取組によりめざす指標>
ニーズに即した支援が実施されていると感じる地活協の構成団体：80%以上
【撤退・再構築基準】 50%未満

当年度の取組実績
地活協の活動状況や自律の状況等の把握を通じて、地域の実情に即した細やかな支援を専門的知識のある事業者（中間支援組織）により行い、より多くの住民参加を促す。 地活協への連絡会議の開催（11回）

プロセス(過程)指標の達成状況	
ニーズに即した支援が実施されていると感じる地活協の構成団体：70.5%	未達成

目標の達成状況	取組の進捗状況	戦略に対する取組の有効性	課題と改善策
---------	---------	--------------	--------

中間	達成（見込）	予定どおり進捗	プロセス指標未測定	—
年度末	未達成	予定どおり実施	有効であり、継続して推進	自律的かつ継続的な活動となるよう、人材育成につながる事業の拡大支援を行う。

前年度までの実績

- (令和2年度)
- ・地活協の活動内容や補助金等を区ホームページで公表
- ・中間支援組織による、地域への個別訪問支援の実施
- ・地活協への連絡会議の開催(11回)